

くらがのひがしかみしょうろく  
**倉賀野東上正六遺跡 2**

2022



## 例 言

1. 本書は、宅地造成工事に伴い事前調査された、倉賀野東上正六遺跡第2次調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査及び整理は、開発事業主である群馬グランディハウス株式会社、高崎市教育委員会、有限会社高澤考古学研究所の三者による協定を締結し、高崎市教育委員会による監理のもと、事業主から委託を受けた有限会社高澤考古学研究所が実施した。
3. 発掘調査、整理作業から本書作成にかかる経費は、開発事業主である群馬グランディハウス株式会社に負担していただいた。
4. 発掘調査の項目は以下のとおりである。

遺 跡 / 番 号 倉賀野東上正六遺跡 2 (高崎市遺跡調査番号 : 828)

遺 跡 所 在 地 群馬県高崎市倉賀野町字東上正六 205 ~ 208、223 ~ 226、227-1

発掘調査担当者 澤田福宏 (㈱高澤考古学研究所)

発 剥 調 査 期 間 令和3年9月14日 ~ 令和3年10月15日

調 査 面 積 1 7 2 m<sup>2</sup>

整理作業担当者 澤田福宏 (㈱高澤考古学研究所)

整 理 期 間 令和3年10月1日 ~ 令和4年9月30日

5. 本書の編集は澤田福宏が行った。執筆は第1章第1節を高崎市文化財保護課が、その他を澤田が担当した。
6. 本書に使用した遺構写真は澤田福宏が、遺物写真撮影は有限会社歴史考房まほらに委託した。
7. 本書で使用した遺構平面・断面図は電子平板測量によるデジタルデータで作成したものをデジタル収集したものである。なお、遺構平面測量はタナカ設計 (田中隆明) に委託した。
8. 高所撮影はドローンによるデジタルカメラ撮影をクリエイトR (清水龍太) に委託した。
9. 発掘調査資料、出土遺物は、一括して高崎市教育委員会において保管してある。
10. 発掘調査及び本書の作成にあたって下記の方々の御助言・御教示を賜った。記して感謝いたします。  
(順不同、敬称略)  
群馬グランディハウス株式会社 志村哲 術歴史考房まほら ㈱毛野考古学研究所
11. 発掘調査、整理作業に従事した者は次のとおりである。  
(順不同、敬称略)  
発掘調査：渡明秀 清水萬年 円谷純 橋尚美  
整理作業：川島かおり 杉本めぐみ 橋本真規

## 凡例

1. 掲載図の縮尺は原則として遺跡全体図 1/100、遺構平・断面図は全て 1/60 とし、図中に縮尺を示した。
2. 遺構名は現場で付された名称を使用し、遺物注記・本文記載名は以下の略名を用いた。  
堅穴建物(住居) = SI 土坑 = SK ピット = P 溝 = SD
3. 掲載遺物の縮尺は原則として 1/3、石臼のみ 1/4 とし、縮尺が異なるものも含めて図中に縮尺を示した。
4. 遺構平面図の北方向は座標北を示し、座標は世界測地系IX系である。

5. 出土遺物観察表に示す色調は農林水産技術会議事務局（財）日本色彩研究所監修『標準土色帖』を参照した。また、石材鑑定は山崎芳春が行った。
6. 出土遺物観察表の計測値に示した（ ）は復元推定値を、（ ）は残存値を表す。
7. 本書で使用した火山噴出物の記述は以下の通りである。
 

As-C	……… 3世紀後半降下「浅間 C 軽石」
As-B	……… 1108年（天仁元年）降下「浅間 B 軽石」
As-A	……… 1783年（天明3年）降下「浅間 A 軽石」

## 目 次

### 序 例言 凡例

第1章	調査に至る経緯と調査の経過	1
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	調査の経過	2
第2章 遺跡の立地と環境		2
第3章 基本層序		4
第4章 遺構と遺物		5
第1節	竪穴建物（SI）	5
第2節	土坑（SK）、ピット（P）	6
第3節	溝（SD）	8
第4節	遺構外出土遺物	12
第5節	まとめ	18
遺物観察表		16

### 写真図版

### 報告書抄録

## 第1章 調査に至る経緯と調査の経過

### 第1節 調査に至る経緯

令和3年4月下旬、事業者である群馬グランディハウス株式会社から、高崎市倉賀野町において計画している宅地造成工事に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。該当地は周知の埋蔵文化財包蔵地である39A02遺跡、下佐野39遺跡内に所在するため、工事前に文化財保護法第93条第1項の規定による届出が必要であることを伝えた。

令和3年5月25日、市教委に第93条第1項の届出、埋蔵文化財確認調査申請書が提出され、令和3年6月23日、24日に確認調査を実施した。その結果、古墳時代の集落遺構等を確認した。この結果をもとに事業者と市教委で協議したが、道路工事部分について現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお、遺跡名については「倉賀野東上正六遺跡第2次調査」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に準じ、令和3年8月12日に事業者：群馬グランディハウス株式会社・民間調査機関：有限会社高澤考古学研究所・市教委での三者協定を締結、事業者と民間調査機関の間で発掘調査の契約を締結し、調査実施にあたっては市教委が指導・監督することとなった。



第1図 遺跡位置図（『まっぷ de たかさき』を使用） 縦尺1:2500

北  
正 5=1/800

## 第2節 調査の経過

### 発掘調査

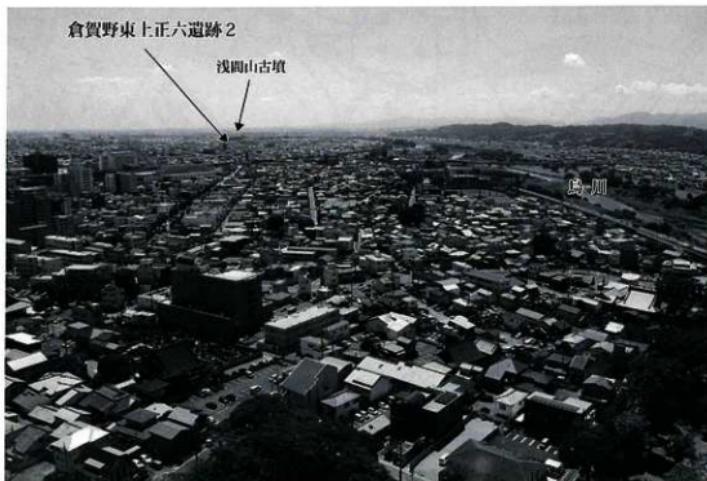
発掘調査は令和3年9月14日から同年10月15日まで実施された。調査経過の概略は下記のとおりである。

- 9月13日： 器材搬入、仮設トイレ設置。
- 9月14日： 調査開始。重機による表土掘削開始。造構確認作業開始。
- 9月16日： 重機による表土掘削終了。基準点測量。
- 9月22日： 高崎市教委視察。
- 9月27日： 造構測量開始。
- 10月12日： 高所撮影、高崎市教委検査。
- 10月14日： 造構調査終了。
- 10月15日： 重機による埋戻し。器材撤収。仮設トイレ撤収。調査終了。

## 第2章 遺跡の立地と環境（第1・2図、表1）

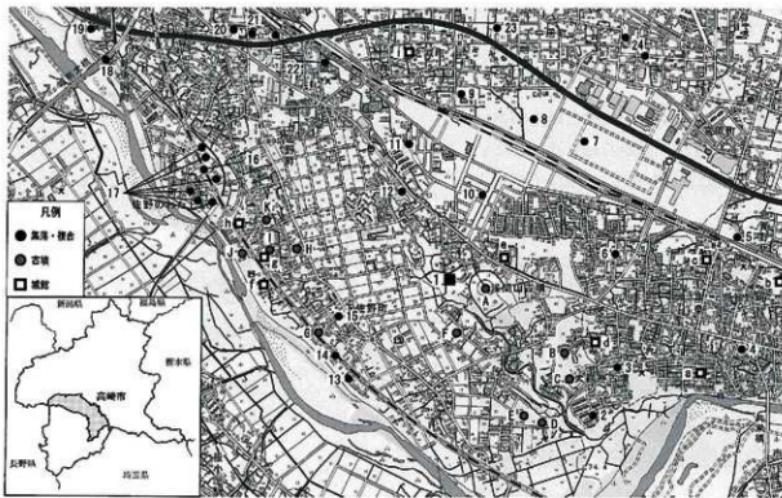
倉賀野東上正六遺跡第2次調査(1)は前方後円墳である浅間山古墳(A)の外堤推定される北西に隣接する位置にあり、烏川左岸の台地上に立地し、標高は約84.7m程である。遺跡のすぐ西側を船沢川が南流し、浸食によると思われる大きな段差が生じている。

本遺跡は古墳時代の住居、中世の井戸・土坑・溝が検出された複合遺跡であるが、周辺には数多くの遺跡が点在している。古墳では同一台地上に前期末～中期初と推定される浅間山古墳(A)・小鶴巻古墳(B)・大鶴巻古墳(C)・茶臼山古墳(D)・大山古墳(E)・庚申塚古墳(F)が、低地を挟んだ西側烏川沿いには長者屋敷天王山古墳(G)・藏王山古墳(H)・漆山古墳(I)・長山古墳(J)・御堂塚古墳(K)が、古墳時代の集落遺跡では倉賀野万福寺遺跡(2)・倉賀野万福寺遺跡II(3)・下之城村前I～V(10)・下之城仲沖遺跡(11)・倉賀野西上正六遺跡(12)・下佐野長者屋敷遺跡(13)・下佐野遺跡(14)・船橋遺跡(16)・



高崎市役所からの遠景

下佐野船橋遺跡 I ~ 6(17) など、城館遺跡では室町～戦国時代と推定される倉賀野城 (a)・倉賀野西城 (d)・倉賀野新堀屋敷 (e) などが分布している。他にも広範囲に様々な遺跡が分布しているが、これについては第2図、第1表を参照されたい。



第2図 周辺遺跡分布図 (『国土地理院 地形図 1:25,000』を使用)

第1表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	概要	No.	遺跡名	概要
1	倉賀野東上正六遺跡 2	本報告書	22	双恋町遺跡	古墳堅穴建物・溝、平安堅穴建物
2	倉賀野方福寺遺跡	圓文・古墳堅穴建物、古墳・圓墳墓、ほか	23	下之城村北 II 遺跡	平安水田
3	倉賀野方福寺遺跡	圓文・古墳堅穴建物、古墳・圓墳墓、ほか	24	下中原垂糸 I ~ IV 遺跡	平安水田
4	倉賀野中町遺跡	中世の城 (倉賀野城二の丸の外郭堤の一一部)	A	浅岡山古坟	前方後円墳 (前期末)
5	倉賀野上通越遺跡	奈良平安住居・塗、中壇溝・井戸、ほか	B	小鶴巻古墳	前方後円墳 (5世紀後)
6	倉賀野余里 I ~ V 遺跡	平安水田、中近世溝	C	大鶴巣古墳	前方後円墳 (中唐初)
7	宮原町遺跡 I ~ 3	平安水田、中近世溝	D	茶臼山古墳	円墳または椭、立貝 (前期末～中唐初)
8	F之城村痕 I ・ II 遺跡	平安水田	E	大山古墳	円墳 (前期末～中唐初)
9	下之城村西 II 遺跡	平安水田	F	赤串塚古墳	円墳 (前期末～中唐初)
10	下之城村前 I ~ V 潟跡	古墳堅穴建物、平安水田、古代大溝、中世 棚・植立、中近世溝・土坑	G	民者堅敷天王山古墳	円墳または張出付き (前期末)
11	下之城村神遺跡	古代堅穴建物、平安水田、中近世溝	H	麻牟守谷古墳	前方後円墳 (6世紀末)
12	倉賀野西上正六遺跡	古墳堅穴建物、中世溝	I	猿山古墳	前方後円墳 (6世紀末～7世紀初)
13	下佐野長者屋敷遺跡	古墳堅穴建物、中世火葬	J	長山古墳	前方後円墳
14	下佐野遺跡 (II 地区)	圓文・古墳・平安堅穴建物、中世井戸・近 世屋敷	K	御空塚古墳	前方後円墳
15	下佐野一本木遺跡	古代堅穴建物、石組、土坑	a	倉賀野城	塩町戦場／倉賀野城主・金井淡路守
16	船橋遺跡	古墳堅穴建物、古墳・圓溝墓、平安堅穴建 物・土坑、中世井戸・土坑	b	養福寺	畿田／倉賀野城の支城
17	上佐野船橋遺跡 I ~ 6	古墳堅穴建物、古墳、平安堅穴建物・井戸・ 溝、中世土坑	c	永泉寺寺塔	畿田／倉賀野城主・金井淡路守が園基、自 らの菩提寺 倉賀野城の北を守る支城
18	新開南小校庭遺跡	古墳・平安堅穴建物	d	倉賀野城	塩町戦場／倉賀野城の支城
19	和田多小校庭遺跡	弥生堅穴建物、圓文土器出土	e	倉賀野新堀屋敷	畿川／籠?
20	和田多中遺跡	平安水田	f	佐野溫殿	塩町／方舟館
21	上佐野鋪塗遺跡	平安水田、近世復旧溝	g	瀬戸越敷	塩町／瀬戸口氏の復郭式城館
			h	佐野溫殿	塩町
			i	和田下之城	畿国／和田氏の支城

### 第3章 基本層序 (第3・4図)

基本土層は地形、遺構分布を考慮して1~3の3ヶ所で深さ1m程まで観察を行った。

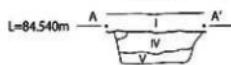
結果、遺構確認面下では3ヶ所とも堆積状況に大きな差異は認められず、表土(1層)以下、As-B含有黑褐色土(II層)、ローム層漸移層(III層)、ローム層(IV・V層)が堆積していることが確認できた。

この堆積状況から本遺跡を含む範囲において安定的に台地が形成されていたことが想像される。

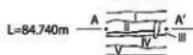
本調査で確認された遺構は断面観察において全てIII層上面から掘り込まれているが、実際に遺構を検出できたのはIV層上面である。



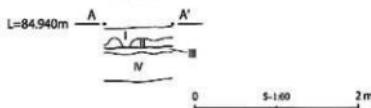
基本土層1



基本土層2



基本土層3



基本土層1~3

- I 黒褐色 粘性・しまり弱 現耕作上。As-A・As-B 認在。炭化物少含む。
- II 黒褐色 粘性弱、しまり有 As-B・黄色粒少量含む。
- III 灰褐色 粘性やや弱、しまり有 黄色土(IV層)・黄色粒やや多く、白色粒・橙色輕石(5mm程)・炭化物粒少含む。IV層の漸移層 上面が遺構掘り込み面だが、実際には遺構確認は難しい。
- IV 明黄色 粘性強 しまり有 橙色粒(5mm程)・白色粒・黄色粒少。粘質土。碳(5~10mm程)少含む。
- V 黄色 粘性あり しまり強(非常に固い) 黄色輕石粒(5mm程) 少量含む。部分的に鉄分沈着。

第3図 基本土層



第4図 遺跡全体図、及び基本土層配置図 S=1/200

## 第4章 遺構と遺物（第4～10図、図版1～8）

本調査は開発面積 3,389.91 m<sup>2</sup>の内、新設道路部分を対象とする調査面積 172 m<sup>2</sup>の調査で、遺構はIV層（ローム土）上面で確認した。

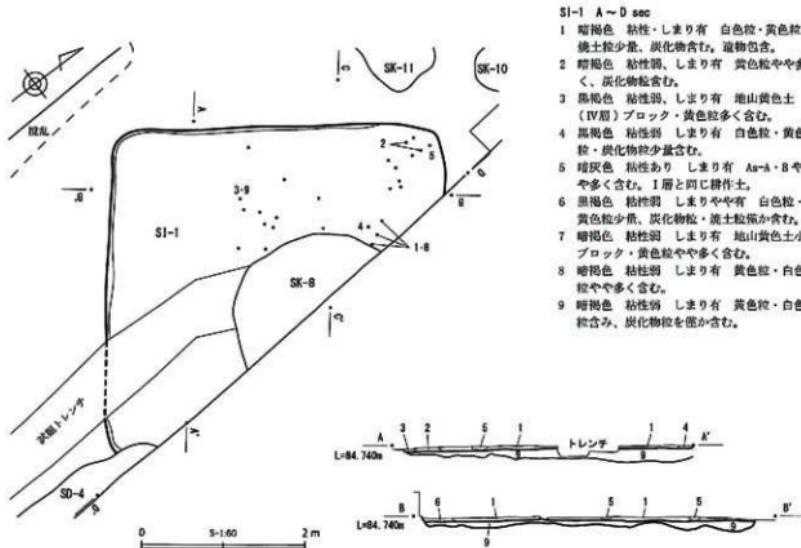
検出された遺構は堅穴建物 1軒、土坑 11基、ピット 1基、溝 4条で、遺物は土師器を主体に埴輪・須恵器・陶器・石製品・鉄製品など 1箱出土し、古鏡・土錐が数点が含まれている。なお、特出遺物として SD-1 出土の蓋形埴輪片が挙げられる。

総体的に遺構は北側に集中しているが、出土遺物は少ないものの調査区中央の SI-1・SK-8 から比較的多く出土している。

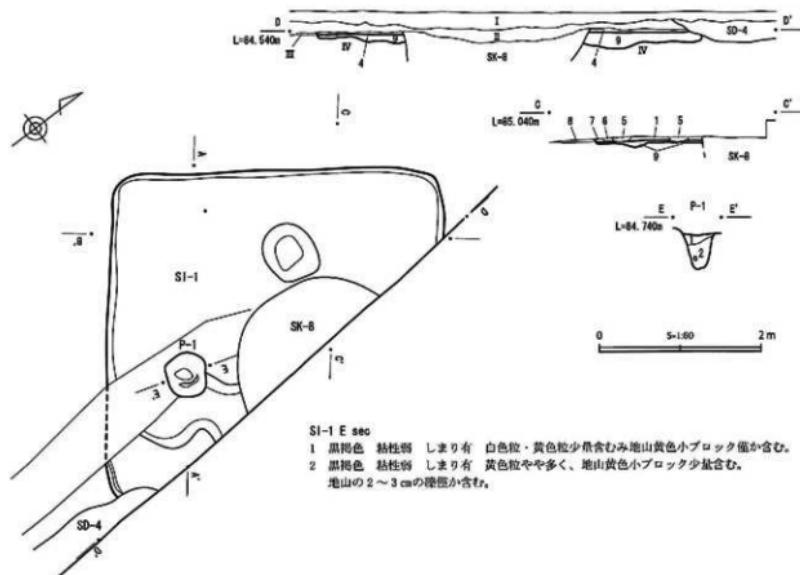
### 第1節 堅穴建物 (SI)

SI-1 (遺構: 第4～6図、図版4／遺物: 第11図、第3表、図版9)

位置: 調査区中央部、調査区東壁に接して検出された。重複: SK-8・SD-4より古い。形態・確認規模: 残存状態は悪く、僅かに床面を残す。さらに東 1/3 程は調査区外にあり、中央部は SK-8 により削平されている。長軸 4.1 m × 短軸 4.0 m、深さ 7 cm 程の方形を成す。主軸方向: N=52° -E。床面: ほぼ平坦。覆土: 烧土粒。炭化粒含有量は黒褐色土を主体とするが、自然か人為堆積かは判断し難い。遺物: 出土遺物は北側に集中している。掲載遺物 9点、未掲載遺物は土師器壺小片を主体に数十点。掘り方: 床面より 2～15 cm 程掘り込まれた凹凸が認められ、ロームブロック含有暗褐色土で人為的に埋められているものと判断される。また、南壁寄りに P-1 が検出された。備考: 遺構の全容は不明瞭であるが、出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



第5図 SI-1 平面・断面図 S=1/60



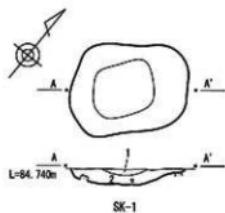
第6図 SI-1 断面図、及びSI-1 掘り方平面図 S=1/60

## 第2節 土坑(SK)、ピット(P)

(第4-6~8図、第2表、図版5-6 / 遺物：第11~13図、第3表、図版9-10)

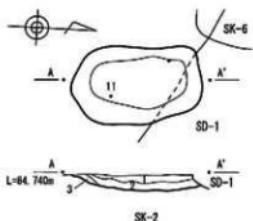
遺物が出土した造構もあるが、後世に流れ込んだ可能性が高くほとんどの造構は時期・性格ともに不明である。各造構の概要については第2表にまとめて記載した。

なお、SK-8については現地表から1.9mを超える崩壊の危険があると判断したことから底面確認はしていない。また、遺物は陶器に混ざって土師器も多量に出土しているが、SI-1に帰属するものと考えるのが妥当であろう。



SK-1

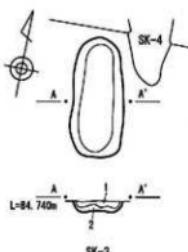
- 1 暗褐色 粘性弱 しまり強 白色粒・黄色鉄石・炭化物粒少量含む。
- 2 暗褐色 粘性弱 しまり強 白色粒・黄色鉄石粒やや多く、炭化物粒・地山褐色小ブロック少含む。



SK-2

SK-2

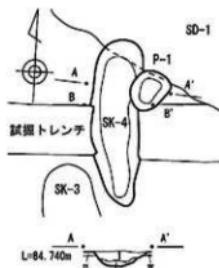
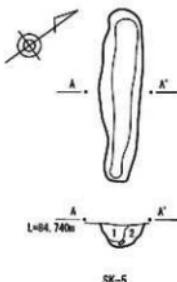
- 1 暗褐色 粘性弱 しまりやや有 白色粒・黄色鉄石・炭化物粒少量含む。
- 2 暗褐色 粘性弱 しまりやや有 地山黄色小ブロック・黄色鉄石粒やや多く、炭化物粒少量含む。



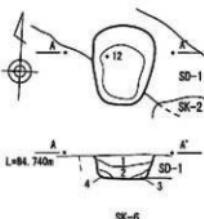
SK-3

SK-3

- 1 暗褐色 粘性弱 しまり強 白色粒・黄色鉄石・地山黄色小ブロック少量含む。
- 2 黄色 粘性弱 しまり強 地山黄色土小ブロック主体。

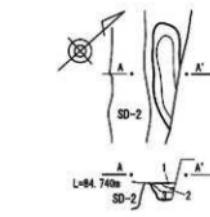
L=84.740m  
SK-3

SK-5



SK-6

0      S=1:60      2 m



SK-7

SK-4

- 1 暗褐色 粘性弱 しまりやや有 黄色粒少量、炭化物粒僅か含む。
- 2 淡褐色 粘性弱 しまりやや有 地山黄色小ブロック・黄色鉄粒多く含む。

P-1

- 1 暗褐色 粘性弱 しまり有 白色粒・黄色鉄石少量、炭化物粒僅か含む。
- 2 暗褐色 粘性弱 しまり有 白色粒・黄色鉄石少量、炭化物粒・地山黄色小ブロック僅か含む。

SK-5

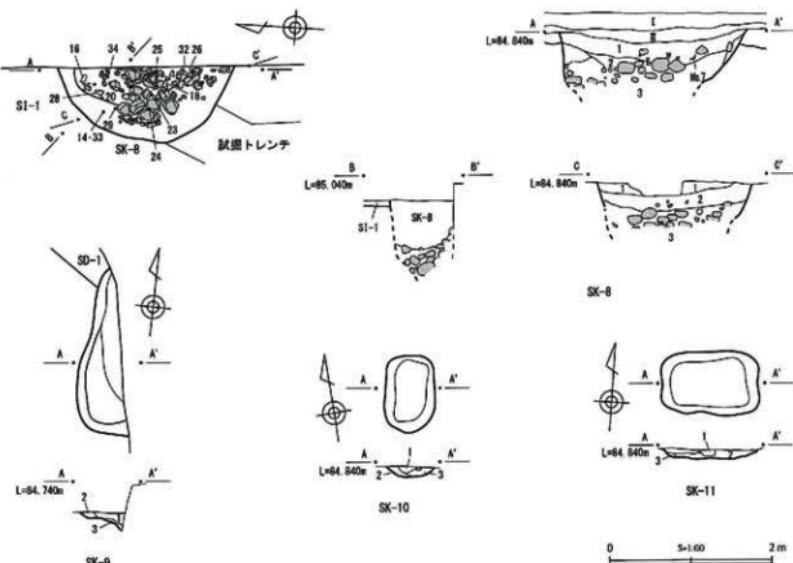
- 1 暗褐色 粘性弱 しまりややや有 白色粒やや多く、白色鉄少量含む。
- 2 淡褐色 粘性弱 しまりやや有 白色粒・炭化物粒少量含む。

SK-6

- 1 暗褐色 粘性弱 しまり有 白色粒・黄色鉄やや多く、炭化物粒少量含む。
- 2 暗褐色 粘性弱 しまり有 白色粒・黄色鉄・炭化物粒少量含む。
- 3 淡褐色 粘性弱 しまり有 地山黄色小ブロック多く含む。
- 4 暗褐色 粘性弱 しまり有 地山黄色小ブロック・黄色鉄少量含む。

SK-7

- 1 暗褐色 粘性弱 しまり有 白色粒・黄色鉄少量含む。
- 2 暗褐色 粘性弱 しまり有 白色粒・黄色鉄・炭化物粒少量含む。
- 3 淡褐色 粘性弱 しまり有 地山黄色小ブロック・黄色鉄少量含む。



#### SK-8

- 1 黒褐色 粘性弱 しまりやや有 白色粒・黄色粒・炭化物粒少量、地山暗褐色土小ブロックや多く含む。
- 2 喀褐色 粘性弱 しまりやや有 白色粒・黄色粒少量・炭化物粒少量、1~3cmの混含。
- 3 防衛色 粘性・しまりやや有 黄色粒・炭化物粒少量、10~25cmの混多く含む

#### SK-9

- 1 喀褐色 粘性弱 しまり有 白色粒 (As-Bか) 多く、地山黄色小ブロック・黄色粒少含む。
- 2 喀褐色 粘性弱 しまり有 白色粒 (As-Bか) 多く、地山黄色小ブロックや多く含む。
- 3 喀褐色 粘性弱 しまり有 白色粒・黄色粒少量、炭化物粒僅か含む。

#### SK-10

- 1 喀褐色 粘性弱 しまりやや有 地山黄色小ブロック・黄色粒少、やや多く、白色粒含む。
- 2 喀褐色 粘性弱 しまりやや有 黄色粒や多く、白色粒含む。
- 3 桃色 粘性弱 しまり有 地山黄色小ブロック多く含む。

#### SK-11

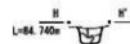
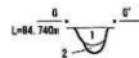
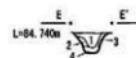
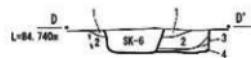
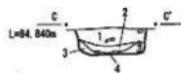
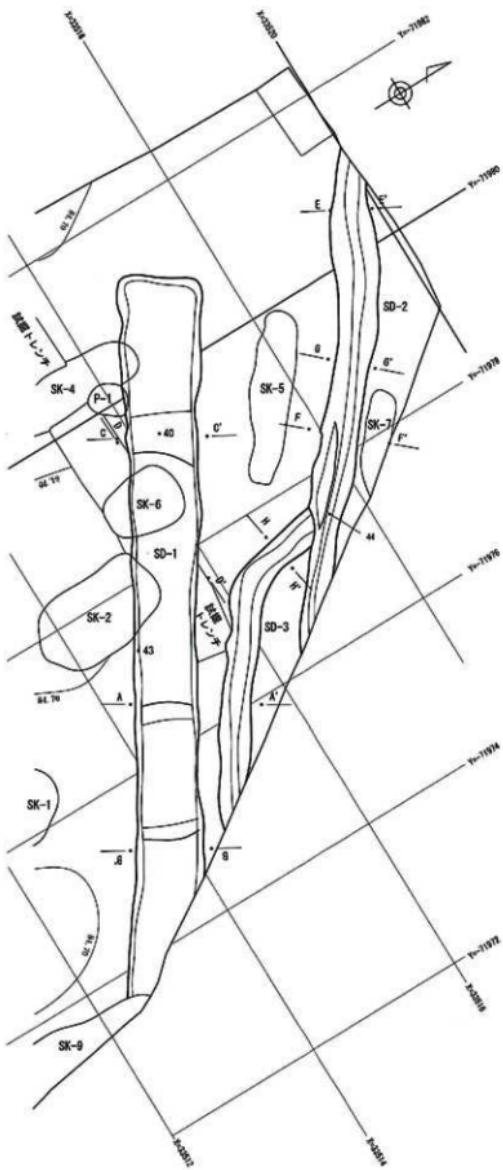
- 1 喀褐色 粘性弱 しまりやや有 白色粒 (As-B (As-Aを含むか?))・黄色粒や多く、炭化物粒少含む。
- 2 黒褐色 粘性弱 しまり有 炭化物主体、地山小ブロック少含む。
- 3 喀褐色 粘性弱 しまり有 白色粒・黄色粒少量・炭化物粒僅か含む。

第8図 SK-8~11

### 第3節 溝 (SD)

SD-1 (構造: 第4・9・10図、図版7・8/遺物: 第12・13図、第3表、図版10)

位置: 調査区北部に検出された。重複: SK-2・6より古い。SK-4・P-1との関係は不明瞭。形態・確認規模: 調査区北部を東西に走る。全長(東西) 8.8 m × 上幅 1.0 m 程、底面は部分的に段差があり深さ 20 ~ 30 cm 程を測る。断面形状は箱状を成す。主軸方向: N-58°-W。覆土: 白色粒、黄色ブロック・粒(ローム?)含有暗褐色土を主体とし、部分的に礫・炭化物粒を含む。自然か人為堆積かは判断し難い。遺物: 覆土中から古墳前期の土師器を主体に多量の遺物が出土しているが、中でも蓋形埴輪片(36)は特出すべき遺物に挙げられる。掲載遺物 8 点、未掲載遺物は土師器数十点。近世陶器 1 点。備考: 壁が直立しておりかなり新しい印象を受けるが、時期・性格とも不明である。



第9図 SD-1～3

## SD-1 A sec

- 暗褐色 粘性弱 しまりやや有 白色粒・黄色粒少量、炭化物粒僅か含む。
- 暗褐色 粘性弱 しまりやや有 地山黄色土小ブロック・黄色粒やや多く、1~3 cmの組合む。
- 暗褐色 2層と同じで黄色粒や多い。
- 褐色 粘性やや有 しまり有 黄色土小ブロック主体。
- 暗褐色 粘性弱 しまりやや有 白色粒・黄色粒少量含む。
- 褐色 粘性・しまり弱 地山黄色土小ブロックやや多く、黄色粒多く含む。

## SD-1 B sec

- 暗褐色 粘性弱 しまり有 黄色粒・白色粒やや多く、地山の2~3 cmの組合少含む。
- 褐色 粘性弱 しまり有 地山黄色土小ブロック多く含む。
- 暗褐色 粘性弱 しまり有 地山黄色土小ブロック・黄色粒やや多く、5~10 cmの組合む。
- 褐色 粘性弱 しまり有 地山黄色土小ブロック・黄色粒やや多く、5~10 cmの組合む。

## SD-1 C sec

- 暗褐色 粘性弱 しまり有 黄色粒・白色粒多く、地山の2~3 cmの組合少含む。
  - 暗褐色 粘性弱 しまり有 黄色粒・白色粒やや多く、炭化物粒僅か含む。
  - 暗褐色 粘性弱 しまり有 地山黄色土小ブロック・黄色粒少量含む。
  - 褐色 粘性弱 しまり有 地山黄色土小ブロック・黄色粒やや多く含む。
- ※1~3端の白色粒はAs-Bと考えられる

## SD-1 D sec

- 暗褐色 粘性弱 しまり有 白色粒・黄色粒やや多く含む。
- 暗褐色 粘性弱 しまり有 白色粒・黄色粒・炭化物粒少量含む。
- 暗褐色 粘性弱 しまり有 白色粒少量含む。
- 暗褐色 褐色 粘性弱 しまり有 地山黄色土小ブロック・黄色粒やや多く含む。

## SD-2 E sec

- 暗褐色 粘性弱 しまりやや有 白色粒・黄色粒・2~5 cmの地山の組合少含む。
- 褐色 粘性・しまりやや有 黄色粒・黄色粒・地山黄色土小ブロック多く含む。
- 黄色 粘性やや有 しまり有 堆山黄色ブロック主体。
- 暗褐色 粘性やや有 しまり弱 黄色粒多く、岩山の1~3 cmの組合か含む。

## SD-2 F sec

- 暗褐色 粘性弱 しまりやや有 白色粒・黄色粒・2~5 cmの地山の組合少含む。
- 褐色 粘性・しまりやや有 黄色粒・黄色粒・地山黄色土小ブロック多く含む。
- 暗褐色 粘性弱 しまりやや有 黄色粒少量、地山黄色小ブロック種類か含む。
- 暗褐色 粘性やや有 しまり弱 黄色粒多く、地山の1~3 cmの組合か含む。

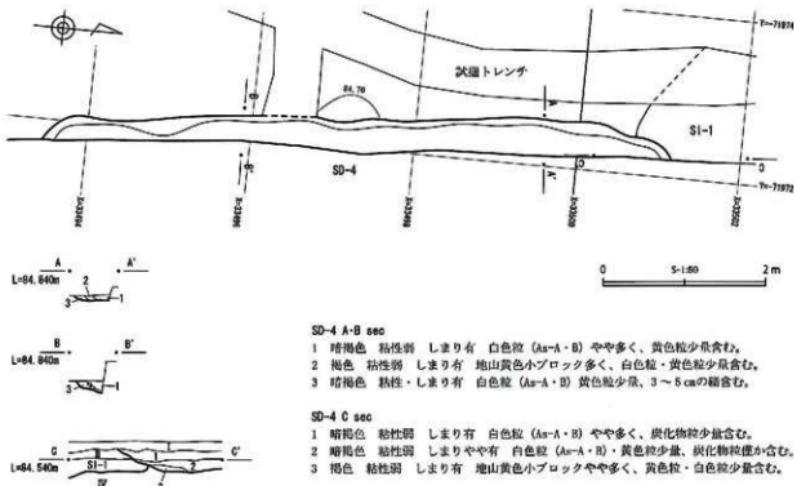
## SD-2 G sec

- 暗褐色 粘性弱 しまり有 黄色粒・白色粒少量、炭化物粒僅か含む。
- 暗褐色 粘性弱 しまり有 地山黄色土小ブロック・黄色粒やや多く含む。

## SD-2 H sec

- 暗褐色 粘性弱 しまり有 白色粒・黄色粒多く、地山黄色小ブロックやや多く含む。
- 暗褐色 粘性弱 しまり有 黄色粒・地山黄色土小ブロック少量含む。

## SD-1 ~ 3 土層説明



第10図 SD-4

第2表 土坑(SK)、ピット一覧表

重複：&lt;=より古、&gt;=より新／計測単位：cm

番号	位置	重複	平面形状	確認規模			掲載遺物
				長軸	短軸	深さ	
SK-1	北部	なし	純丸形	146	114	20	—
	4-7	不明	皿状	方位	N-50° -E	—	土師器S字縫1
SK-2	北部	> SD-1	純丸形	162	96	20	2点／第10回10-11
	4-7	不明	皿状	方位	N-7° -W	—	土師器片數十点
SK-3	北部	なし	楕円	147	66	13	—
	4-7	不明	逆台形	方位	N-9° -E	—	土師器片1
SK-4	北部	> P-1, SD-1?	楕円	193	62	20	—
	4-7	不明	逆台形	方位	N-3° -E	—	土師器片6
SK-5	北部	なし	長楕円	212	53	29	—
	4-7	不明	U字状	方位	N-51° -W	—	土師器片7
SK-6	北部	> SD-1	純丸形	98	76	29	2点／第10回12-13
	4-7	不明	逆台形	方位	N-1° -W	—	土師器片數十点
SK-7	北部	東端は調査区外	長楕円	131	34	20	—
	4-7	不明	逆台形	方位	N-48° -W	—	土師器片4
SK-8	中央東壁	東側1/2程は調査区外	円?	218	—	—	22点／第12-13回14～34
	4-8	中堅り立戸	湖斗状?	方位	—	—	土師器片多量、陶器多量、漆多量
SK-9	北部	> SD-1、東側は調査区外	—	207	—	—	—
	4-8	不明	—	方位	—	—	土師器片1
SK-10	北部	なし	純丸形	95	62	13	—
	4-8	不明	逆台形	方位	N-9° -E	—	なし
SK-11	北部	なし	方形	121	79	13	—
	4-8	不明	皿状	方位	N-84° -W	—	なし
P-1	北部	> SD-1?、SK-4	円	49	38	17	—
	4-7	不明	逆台形	方位	N-36° -E	—	なし

## SD-2 (構造：第4・9図、図版7-8)

位置：調査区北端に検出された。重複：SD-3と重複するが、関係は不明。形態・確認規模：調査区北端を東西に走る。全長6.2m×上幅40～45cm程を、断面形状は逆台形を成し、深さ30cm程を測る。僅かに東へ傾斜しているように見える。主軸方向：N-125° -E。覆土：白色粒、黄色粒（ローム？）含有暗褐色土を主体とし、部分的に礫を含む。自然か人為堆積かは判断し難い。遺物：覆土中から古墳前期の土師器片数点が出土している。掲載遺物1点、未掲載遺物は土師器片数点。備考：時期・性格とも不明である。

## SD-03 (構造：第4・9図、図版7)

位置：調査区北端に検出された。重複：SD-2と重複するが、関係は不明。形態・確認規模：調査区北端を東西に走るが、西端部は北に屈曲しSD-2に接する。全長4.2m×上幅30～35cm程を、断面形状は逆台形を成し、深さ25cm程を測る。僅かに東へ傾斜しているように見える。主軸方向：N-168～126° -E。覆土：白色粒、黄色粒・ブロック（ローム？）含有暗褐色土を主体とする。自然か人為堆積かは判断し難い。遺物：覆土中から古墳前期の土師器片數十点が出土している。掲載遺物なし、未掲載遺物は土師器片數十点。備考：時期・性格とも不明である。

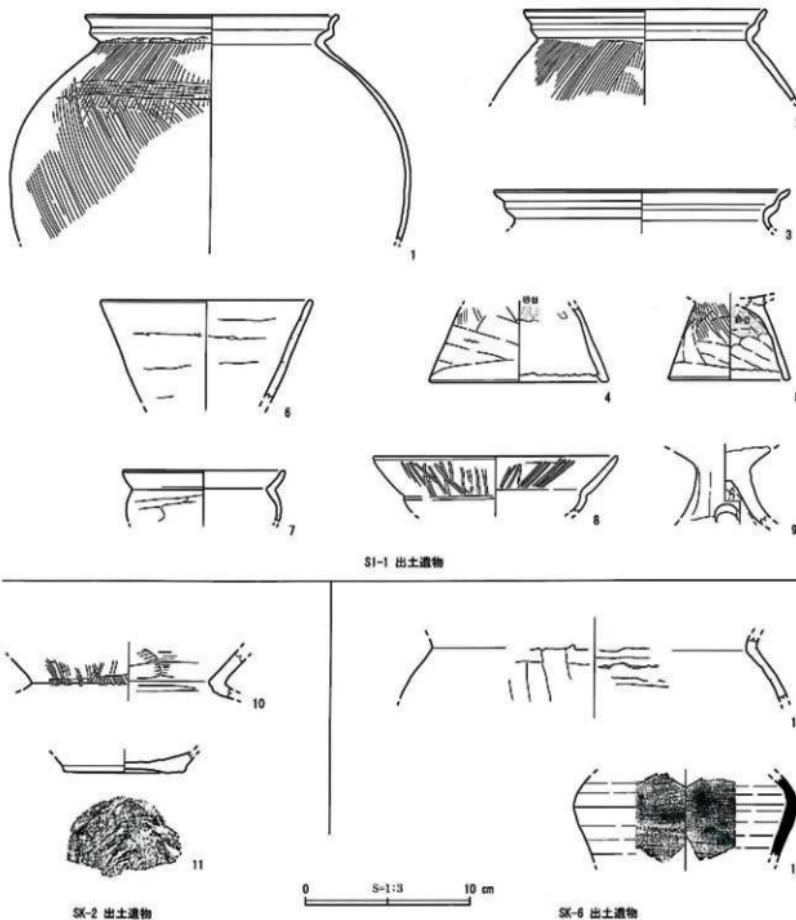
## SD-4 (構造：第4・9図、図版6)

位置：調査区中央部東端に検出された。重複：SI-1より新しい。形態・確認規模：調査区中央部を東壁に沿って南北に走り、東側は調査区外に拡がっている。全長7.7m×深さ6～15cm程を測る。僅かに南へ傾斜しているように見える。主軸方向：N-176° -E。覆土：白色粒、黄色粒（ローム？）含

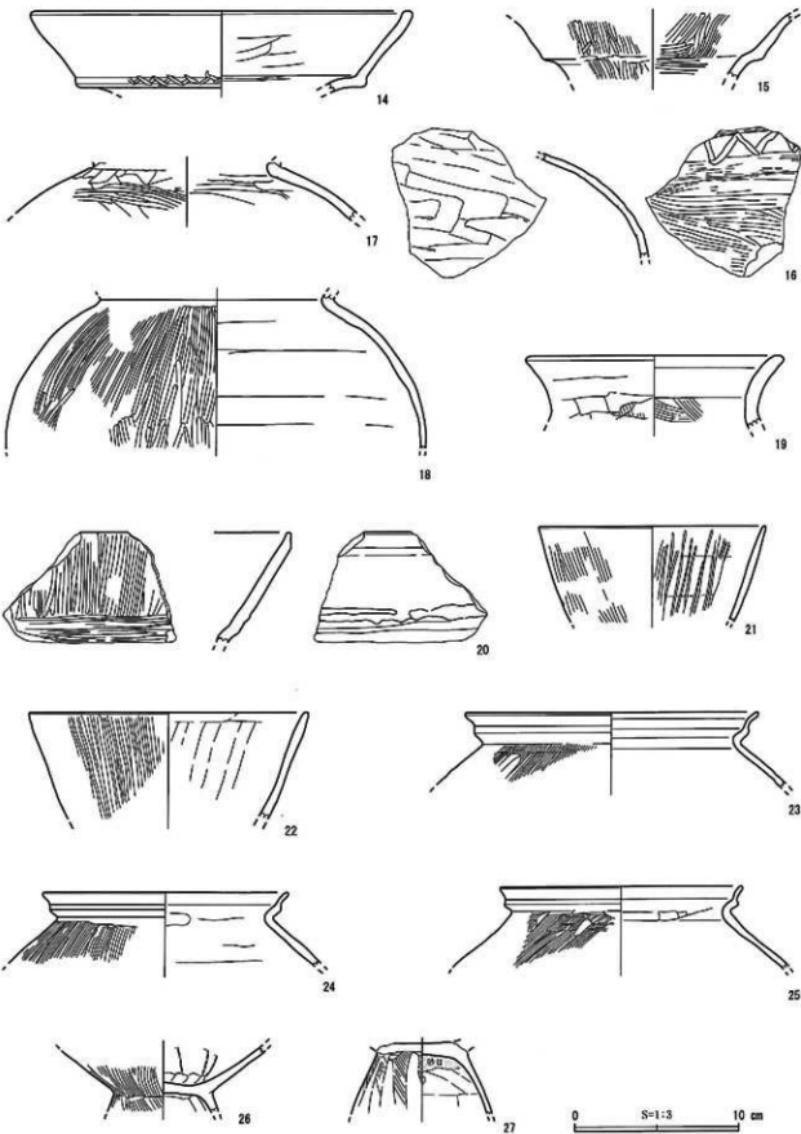
有暗褐色土を主体とする。自然か人為堆積かは判断し難い。 遺物：覆土中から土師器片数点が出土している。掲載遺物なし、未掲載遺物は土師器片3点、磁器（近世以降）1点。 備考：時期・性格とも不明である。

## 第5節 遺構外出土遺物

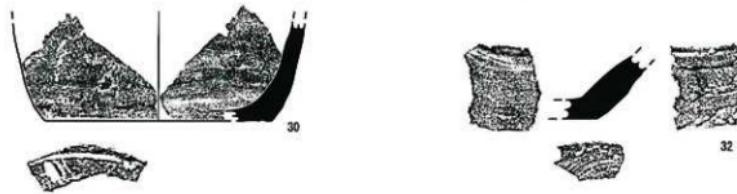
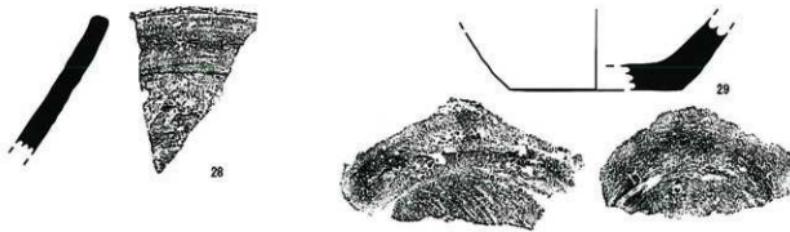
遺構外出土遺物は総体的に少なく、土師器數十点、陶磁器（近世以降）4点のみで掲載遺物はない。



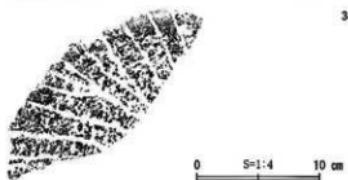
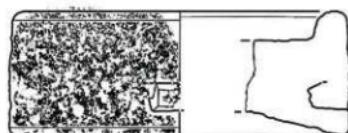
第11図 SI-1、SK-1・2、SK-6出土遺物



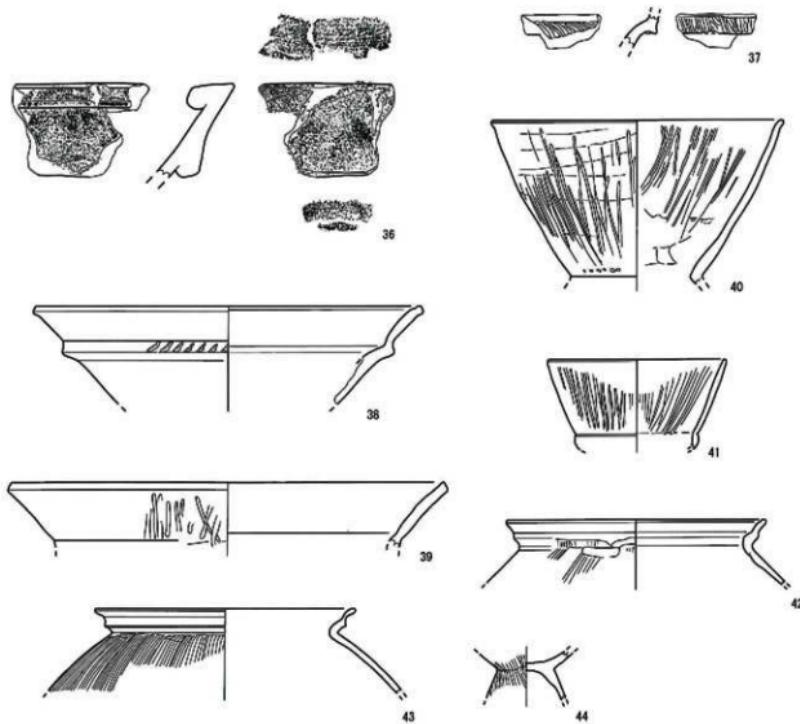
第12図 SK-8 出土遺物1



0 S=1:3 10 cm



第13図 SK-8 出土遺物2



第14図 SD-1 出土遺物

0 S=1:3 10 cm

第3表 出土遺物観察表

No.	遺構 出土状況	種別 器種	計測値(cm)		残存 焼成	色調 胎土	内・外面の特徴	注記	
			口径	底径					
1	SI-1 No.9-10・12	土師器 S字甕	(15.6)	-	(14.0) 1/8・普通	口縁～体部 長石・雲母・砂	外：口縁部マツツ、体部ハケ 内：マツツ	SI-1 No.9-10・12	
2	SI-1 No.1-2・25	土師器 S字甕	(15.0)	-	<(5.6)	口縁～肩部 破片／普通	口縁部ヨコナダ 外：肩部ハケ／内：肩部ヘラナダ	SI-1 No.1-2・25	
3	SI-1 No.22. 確認面	土師器 S字甕	(18.2)	-	(2.5)	口縁部破片 普通	口縁部ヨコナダ 内：マツツ	SI-1 No.21. 確認面	
4	SI-1 No.11	土師器 台付甕	-	(11.0) (4.2)	台部 1/8 良好	明黄褐色 長石・雲母・砂	外：ヘラナダ・ハケ 内：ヘラナダ、京都砂目	SI-1 No.11	
5	SI-1 No.1 北 東部	土師器 台付甕	-	7.5 (5.2)	台部 3/4 良好	明黄褐色 長石・雲母・チャート・砂	外：ヘラナダ・ハケ 内：ヘラナダ、頭部砂目	SI-1 No.1 SI-1 北東	
6	SI-1 確認面 埴	土師器 瓶	(13.0)	-	(6.4)	口縁部破片 普通	ヘラナダ	SI-1 確認面	
7	SI-1 羅方 小型甕	土師器 瓶	(10.0)	-	(3.2)	口縁～体部 破片／普通	外：口縁部ヘラナダ・体部ヘラケズリ 内：ヘラナダ	SI-1 羅方	
8	SI-1 No.16 坏	土師器 瓶	(15.0)	-	(3.5)	口縁～体部 破片／普通	外：口縁部ヘラナダミガキ、底部ヘラケ スリ／内：口縁部ミガキ、底部ヘラナダ	SI-1 No.9-10・12	
9	SI-1 No.21 坏	土師器 瓶	-	-	(4.2)	脚部 1/3 良好	透黃褐色／長石・チャート ト・角閃石・蛭石・砂	透かし孔3箇所 外：ヘラナダ／内：ヘラナダ	SI-1 No.21
10	SK-2 一括	土師器 盡	-	-	(2.5)	頭部破片 良好	外：にぶい黒、内：灰 長石・雲母・砂	外：ヘラナダ後、ミガキ 内：ヘラナダ	SK-2
11	SK-2 No.1	土師器 甕	-	7.5 (1.2)	底部 1/2 良好	外：にぶい黄褐色、内：明 黄褐色／長石・雲母・角 閃石・蛭石・砂	外：ヘラケズリ 内：ヘラナダ	SK-2 No.1	
12	SK-6 No.1	土師器 甕	-	-	(4.1)	体部破片 良好	外：にぶい黄褐色、内：明 黄褐色／長石・雲母・角 閃石・蛭石・砂	ヘラナダ	SK-6 No.1
13	SK-6 一柄	土師器 甕	-	-	(5.2)	体部破片 良好	明黄褐色 長石・砂	回転ナダ	SK-6
14	SK-8 No.8	土師器 甕	(23.6)	-	(5.1)	口縁部破片 良好	外：口縁部下端斜面 長石・石英・雲母・砂	内：ヘラナダ	SK-8 No.8
15	SK-8 南 甕	土師器 甕	-	-	(4.9)	口縁部破片 普通	外：にぶい黄褐色 長石・雲母・砂	ミガキ 内：ミガキ	SK-8 南
16	SK-8 No.1 甕	土師器 甕	-	-	(9.7)	体部破片 良好	外：細曲文、ヘラケズリ、ヘラナダ・ハケ、 ト・砂	ミガキ／内：ヘラナダ	SK-8 No.1
17	SK-8 北 甕	土師器 甕	-	-	(3.5)	肩部破片 良好	外：ヘラケズリ後ヘラナダ	ヘラナダ	SK-8 北
18	SK-8 No.4 中層・確認面 甕	土師器 甕	-	-	(9.5)	体部破片 良好	外：にぶい赤褐色 長石・雲母・砂	ミガキ 内：ヘラナダ	SK-8 No.4 中層・確認面
19	SK-8 確認面 甕	土師器 甕	(15.9)	-	(3.6)	口縁部破片 普通	外：にぶい黄褐色 長石・雲母・片岩・砂	ヘラナダ（一部剥落）	SK-8 確認面
20	SK-8 No.16 甕	土師器 甕	-	-	(6.6)	口縁部破片 良好	外：にぶい黄褐色 長石・雲母・砂	口縁部ヨコナダ 外：ヘラナダ／内：ミガキ	SK-8 No.16
21	SK-8 確認面 埴	土師器 瓶	(14.0)	-	(5.9)	口縁部破片 良好	外：にぶい黒、内：黄 褐色／片岩・角閃石・蛭石・砂	ヘラナダ後ミガキ	SK-8 確認面
22	SK-8 中層 埴	土師器 瓶	(17.1)	-	(6.5)	口縁部破片 良好	外：にぶい黒、内：黄 褐色／片岩・角閃石・チャート・砂	ミガキ 内：ヘラナダ	SK-8 中層
23	SK-8 No.13	土師器 S字甕	(18.0)	-	(4.7)	口縁～肩部 破片／良好	外：にぶい黒、内：に くび黄褐色／雲母・砂	口縁部ヨコナダ 外：肩部ヘケ／内：肩部ヘラナダ	SK-8 No.13
24	SK-8 No.12	土師器 S字甕	(15.1)	-	(4.6)	口縁～肩部 破片／良好	外：にぶい黒、内： 黄褐色／雲母・砂	口縁部ヨコナダ 外：肩部ヘケ／内：肩部ヘラナダ	SK-8 No.12
25	SK-8 No.3	土師器 S字甕	(14.9)	-	(5.1)	口縁～肩部 破片／良好	外：にぶい黒、内： 黄褐色／長石・雲母・砂	口縁部ヨコナダ 外：肩部ヘケ／内：肩部ヘラナダ	SK-8 No.3
26	SK-8 No.7	土師器 台付甕	-	-	(4.1)	底部 良好	外：にぶい黒、内： 黄褐色／片岩・角閃石・蛭石・砂	ヘケ 内：ヘラナダ	SK-8 No.7
27	SK-8 下層 台付甕	土師器 甕	-	-	(4.6)	底部 1/5 良好	外：にぶい黄褐色／長石・角 閃石・蛭石・砂	ヘケ後ヘラナダ 内：ヘラナダ、頭部砂目	SK-8 下層
28	SK-8 No.2	中性陶器 甕	-	-	(8.4)	口縁部破片 良好	外：にぶい黄褐色 長石・雲母・砂	ヘラナダ	SK-8 No.2

No.	遺構	種別	計測値(cm)			残存	色調	内・外の特徴	注記
			口径	底径	器高				
29	SK-8 No.17	中世陶器 指鉢	-	(10.6)	(3.5)	底部1/3 良好	灰白 長石・雲母・砂	外：体部下端へラケズリ、底部回転糸切後 ヘラナダ／内：ヘラナダ	SK-8 No.17
30	SK-8 一括	中世陶器 内耳鍋	-	(14.0)	(6.0)	体～底部 破片／良好	外：にぶい根、内：灰 黄／長石・雲母・砂	外：体部下端～底部へラケズリ 内：ヘラナダ	SK-8
31	SK-8 下層	中世陶器 鉢	-	(12.2)	(2.5)	底部破片 良好	外：褐灰、内：にぶい 黄鐵／雲母・チャート・ 角閃石・長石・砂	外：底部回転糸切 内：ヘラナダ	SK-8 下層
32	SK-8 No.6	中世陶器 鉢	-	-	(3.1)	底部破片 普通	外：にぶい根、内：灰 黄褐色・チャート・ 角閃石・長石・砂	外：体部ヘラナダ、底部回転へラケズリ 内：ヘラナダ	SK-8 No.6
33	SK-8 No.8・一括	中世陶器 指鉢	-	-	(7.0)	底部破片 良好	外：にぶい黄鐵、内：灰 灰灰／長石・雲母・砂	外：にぶい黄鐵、内： 外：指目、ヘラナダ 内：ヘラナダ	SK-8 No.8 SK-8
No.	遺構	種別	計測値(cm)			重	残存	備考	注記
	出土状況	器種	上径	下径	高さ		材質		
34	SK-8 No.15	石臼	(27.4)	(28.0)	10.2	1,670g	I/S 安山岩	孔：前辺2.3×奥辺1.4×奥行3.2 一部被熱	SK-8 No.15
No.	遺構	種別	計測値(cm)			重	残存	備考	注記
	出土状況	器種	長	幅	厚		材質		
35	SK-8 No.14	西暦石？	16.8	5.7	3.1	607g	光形 片岩	写真のみ	SK-8 No.14
No.	遺構	種別	計測値(cm)			重	残存	内・外の特徴	注記
	出土状況	器種	口径	底径	器高		施成	始土	
36	SD-1 北・一括	埴輪 雷形	-	-	(7.0)	受部口縫 破片／良好	淡黄橙 長石・石英・砂	蓋形3類：口縫部が内側に屈曲する(※1) 外：ハケ／内：ハケ	SD-1 北 SD-1
37	SD-1 北	土師器 蓋	-	-	(1.9)	口縫部破片 良好	板 長石・雲母・砂	外：上段ミガキ、下段ヘラナダ 内：上段ヘラナダ、下段ミガキ	SD-1 北
38	SD-1 北	土師器 蓋	(12.0)	-	(6.1)	口縫部破片 良好	外：にぶい根、内：に ぶい黄鐵／長石・雲母・ 砂	外：ヘラナダ、口縫部上段下端に刺み目 内：ヘラナダ	SD-1 北
39	SD-1 北	土師器 壺	(27.0)	-	(4.0)	口縫部破片 良好	にぶい黄鐵 長石・雲母・砂	外：ヘラナダ、ミガキ 内：ヘラナダ	SD-1 北
40	SD-1 No.2	土師器 壺	(18.0)	-	(10.2)	口縫部 破片／良好	にぶい黄鐵 雲母・砂	外：ヘラナダ後ミガキ 内：ヘラナダ後ミガキ	SD-1 No.2
41	SD-1 北	土師器 壺	(11.1)	-	(5.1)	口縫部～体部 破片／良好	にぶい黄鐵 雲母・砂	ミガキ	SD-1 北
42	SD-1 北	土師器 S字壺	(16.0)	-	(3.9)	口縫部破片 良好	外：にぶい根、内：根 長石・石英・雲母・砂	口縫部ヨコナダ 外：肩部ハケ／内：肩部ヘラナダ	SD-1 北
43	SD-1 No.1	土師器 S字壺	(16.0)	-	(5.1)	口縫部 破片／普通	にぶい黄鐵 長石・雲母・砂	口縫部ヨコナダ 外：肩部ハケ／内：肩部ヘラナダ	SD-1 No.1
44	SD-2 No.1	土師器 台付壺	-	-	(2.8)	底～台部 破片／普通	にぶい根、内：に ぶい黄鐵／雲母・砂	外：ハケ 内：ヘラナダ	SD-2 No.1

表1：高橋克謙 1988 「『論説』形象埴輪の編年と古墳祭祀」 史林 71(2) 京都大学

## 第5節　まとめ

今回の調査における遺構数は少なく、新設道路建設部分に限られた範囲の調査であり、遺跡の全体像を反映したものとは言い難い。ほとんどの遺構は時期・性格等は不明であるが、出土遺物からSI-1は古墳時代前期の竪穴建物、SK-8は中世の井戸と推定される。

特出すべき遺物では、SD-1から出土した蓋型埴輪（第14図36/図2）が挙げられる。また、SD-1、SK-8からはSI-1と同時期と考えられる土師器に混ざって有段口縁壺の破片（第12図14～16、第14図37・38）が若干出土している。いずれも覆土中からの出土で、隣接地から流れ込んだ可能性が高く、浅間山古墳との関連性が強く示唆される。

有段口縁壺は田口一郎氏<sup>註1</sup>が分類・編年しており、それに当てはめると本遺跡から出土したものは、伊勢型二重口縁壺Ⅲ～IV期に相当し、4世紀後半から5世紀初頭に位置づけられる。また、蓋型埴輪については、高橋克壽氏<sup>註2</sup>が器材埴輪の分類と編年について論じており、蓋型埴輪を1～3類に分類している。その中で本遺跡から出土した蓋型埴輪は大阪府古室山古墳出土のものと類似していることが見てとれ、特徴として受部口縁が内側に屈曲する3類に属するものと判断できる。出土状況としては、受部口縁が直口する1・2類が墳頂部から出土するのに対し、3類は墳丘裾や周溝から出土していることも特徴の一つとして指摘している。このことから、本遺跡出土の蓋型埴輪は隣接する浅間山古墳から流入したと推測しておきたい。なお、3類の出土例は少ないしながらも、年代については5世紀前半から出現し、一部で後半まで使用されるとしている。現在、浅間山古墳の構築年代は4世紀末～5世紀初頭とされており、本遺跡出土の蓋型埴輪とは若干の開きがあるが、古墳に係わる祭祀行為が継続的に行われた可能性が指摘<sup>註3</sup>され、そのなかでの遺物と考えられる。

県内における蓋型埴輪の出土例としては旧赤堀村（現伊勢崎市）茶臼山古墳出土の蓋型埴輪（図2）が有名であるが、受部が直口状で本遺跡出土の蓋型埴輪とは形態が異なり、管見によれば県内初事例の可能性が高いといえる。総体的に出土例が少ないとこや、出土したのは小破片であることから形態全容を把握することは難しい状態であるが、この地域を検討する上で貴重な資料を得られたことには間違いないであろう。今後、さらに詳細な調査と周辺遺跡を加えた分析・研究が行われることを期待しつつ終わりとする。

註1 田口一郎「元鳥名村古墳」高崎市教委 1981

註2 高橋克壽「墨附埴輪の編年と古墳祭祀」『史林』71(2) 京都大学 1988

※本資料については志村哲氏（御毛野考古学研究所）御提示、御教示頂いた。

註3 「新編 高崎市史 資料編I 原始古代1」

高崎市市史編さん委員会 1999

## 参考文献

古屋紀之「墳墓における土器配置の系譜と意義」『駿台史学』第104号駿台史学会 1998

杉本厚典「河内地域の庄内式窯・布密式窯の墳墓について」『大阪歴史博物館研究紀要』第11号大阪歴史博物館 2013

「越後道跡」1990 布愛知県埋文センター

「下郷遺跡」1980 群馬県教委

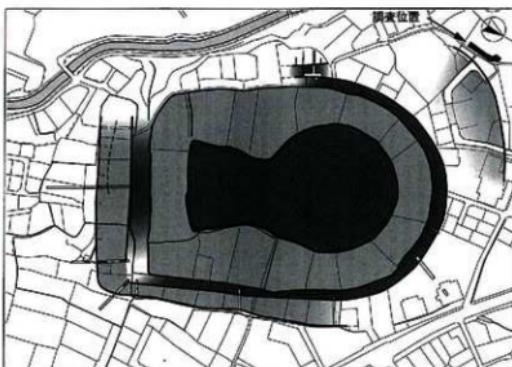
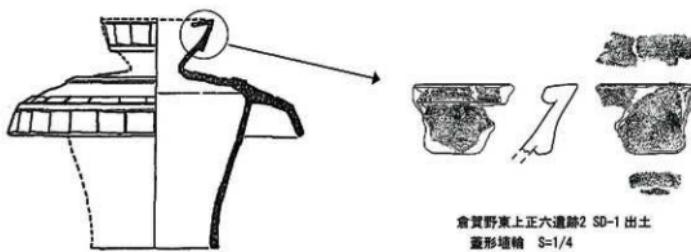


図1 調査区と浅間山古墳の位置（浅間山古墳推定図  
（「倉賀野浅間山古墳」2019高崎市教委一部加筆）



大阪府古室山古墳 3 箱 S=1/32  
「器財埴輪の船形と古墳祭祀」から転記

倉賀野東上正六遺跡2 SD-1 出土  
蓋形埴輪 S=1/4

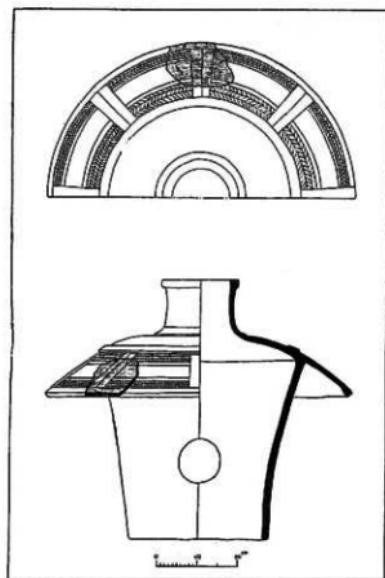


Fig. 23 圓錐 貝蓋 繩 墓 一二第二面拂

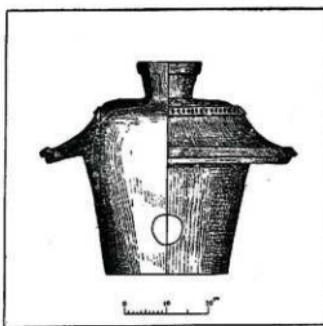


Fig. 21 圓錐 貝蓋 繩 墓 一二第二面拂

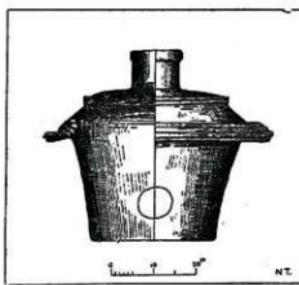


Fig. 22 圓錐 貝蓋 繩 墓 二二第二面拂

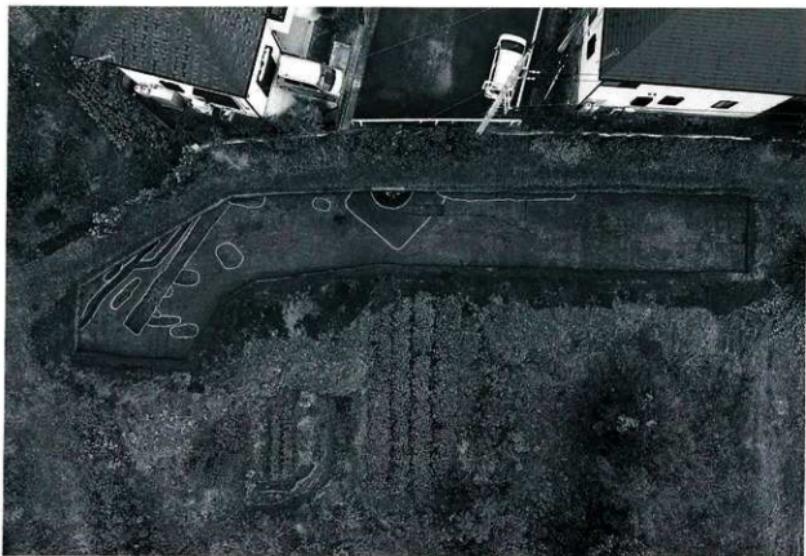
旧赤堀村茶臼山古墳出土蓋形埴輪 東京国立博物館所蔵  
奈良博物館学報 第六編「上野國佐波郡赤堀村今井茶臼山古墳」昭和八年四月 奈良博物館から転記  
原本資料については志村哲氏(奈良考古学研究所) 請提示、御教示頂いた。

図2 蓋形埴輪類例



# 写真図版



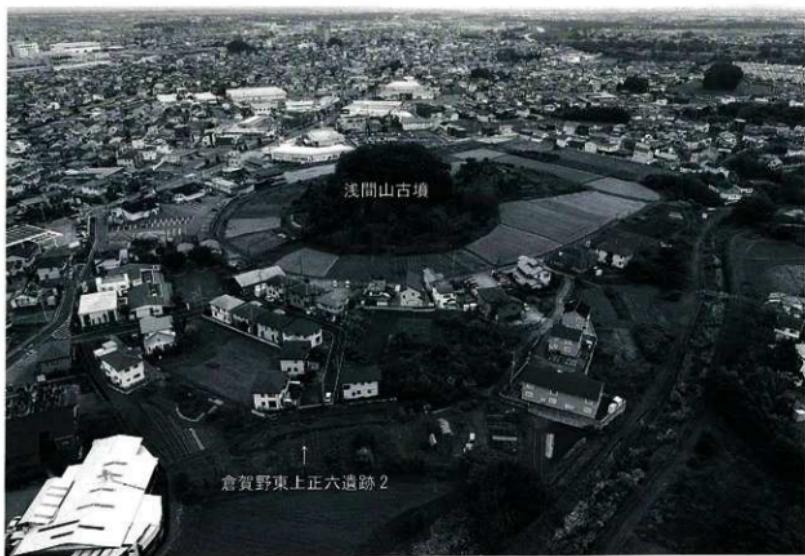


遺跡全景 上が東



遺跡全景 垂直

図版 2



遺跡遠景 北西から



遺跡全景 南東から



調査区北部全景 上が北東



調査区北部全景 (中央が SD1) 北西から

図版 4



SI-1 遺物出土状況 北西から



SI-1 遺物出土状況 北西から



SI-1 遺物出土状況 北西から



SI-1 セクション 北西から



SI-1 掘方セクション 南西から



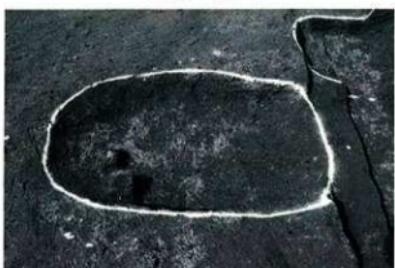
SK-1 完掘 北西から



SK-1 番方 北西から



SK-1 南から



SK-2 東から



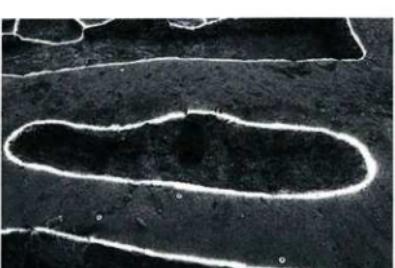
SK-3 セクション 南から



SK-3 東から



SK-4 西から



SK-5 北から



SK-6 東から



SK-7 セクション 南東から



SK-7 南から



SK-8 セクション 西から



SK-8 碓出土状況① 西から



SK-8 碓出土状況② 西から



SK-8 完掘 西から



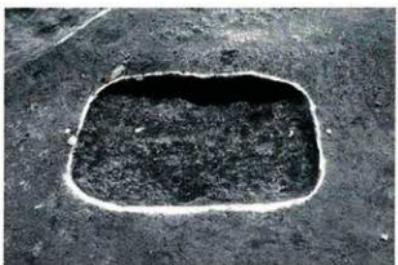
SK-9 西から



SK-10 西から



SK-11 セクション 南から



SK-11 北から



P-1 東から



SD-1 ~ 3 完掘 北西から

図版 8



SD-1 Bセクション 北西から



SD-1 Cセクション 東から



SD-4 北から



作業風景



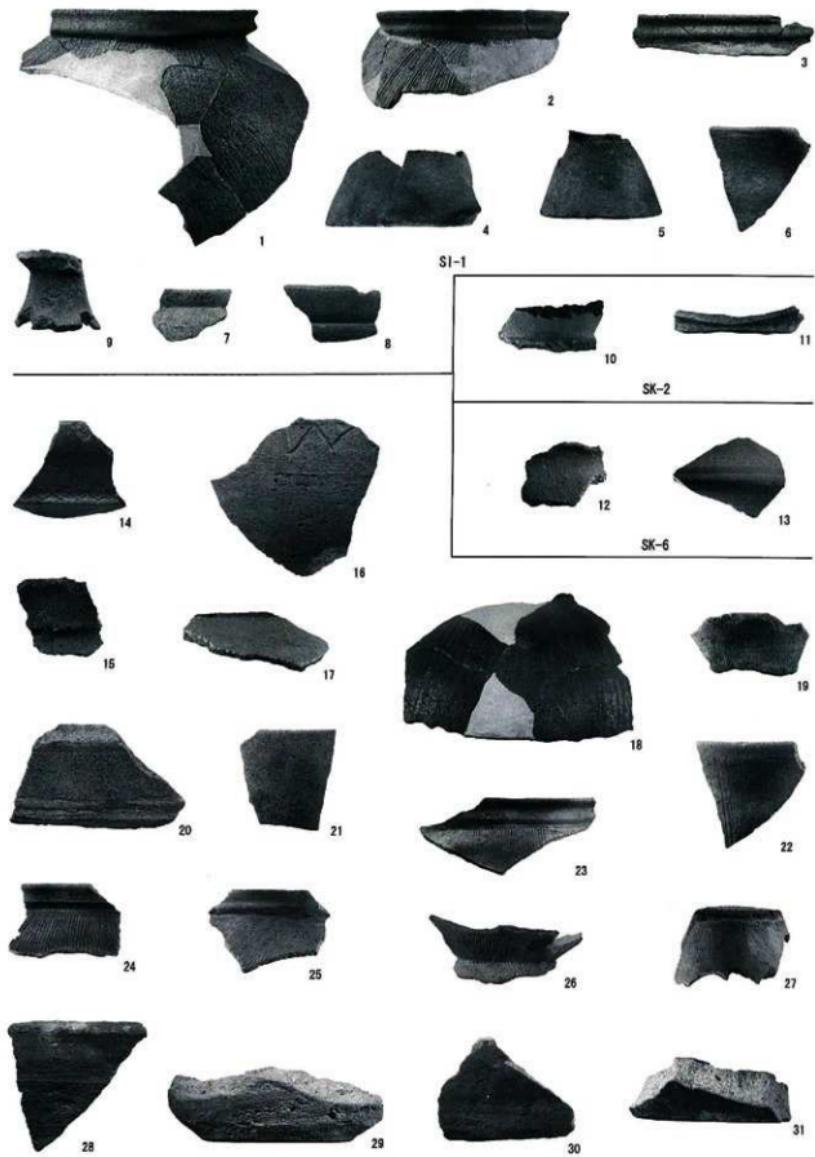
作業風景



作業風景 雨天



作業風景



圖版 10



32



33



35



1

34  
 $S=1/4$

SK-8



36



37



38



36



39



40



43



41



42



44

SD-1

## 発掘調査報告書抄録

ふりがな	くらがのひがしかみしうろくいせき 2
吉名	倉賀野東上正六遺跡2
副書名	宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	一
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第477集
編著者名	澤田福宏
編集機関	有限公司 高澤考古学研究所
編集機関所在地	〒370-0008 群馬県高崎市正龍寺町665番地8
発行日	2022年 9月30日

ふりがな 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
くらがの 倉賀野 東上正六 遺跡2	たかさきこうじやのまち 高崎市倉賀野町 字東上正六 205～208、223 ～226、227-1	102020	828	36° 17' 57"	139° 01' 54"	2021.09.14 ～ 2021.10.15	172 m <sup>2</sup>	宅地造成工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
倉賀野東上正六 遺跡2	集落	古墳 中世 不明	堅穴建物 土坑 土坑 ピット 溝	1軒 1基 10基 1基 4条	埴輪、土師器、須恵器 石臼、陶器     浅間山古墳の北西に隣接し、蓋形埴輪の小破片がSD-1から出土



高崎市埋蔵文化財調査報告 第477集

## 倉賀野東上正六遺跡2

令和4年 9月25日 印刷

令和4年 9月30日 発行

発行 高崎市教育委員会

編集 有限会社高澤考古学研究所

印刷 上武印刷株式会社

